

土器づくりを通して縄文を感じる



8/23
松の館

真剣なまなざしで作成する参加者と田野さん(右)

縄文文化について理解を深めてもらいたいと、市内在住の方を対象に、市教育委員会が田小屋野土器づくり体験を開催しました。

この日、縄文土器・土偶の再現作家である講師の田野紀代子さんから説明を受けながら、田小屋野貝塚の円筒下層式土器を制作。粘土を平たく円形状に伸ばして土器の底になる部分を作ってから、食物繊維を混ぜ、ひも状に伸ばした粘土を底部分の縁に沿って積み重ねて側面を作り、最後に文様をつけて作品を仕上げました。

木造地区から参加した女性は「土器づくりをしたのは初めてで、完成した形を想像しながら作るのは大変だった。土器の焼き上がりがとても楽しみ」と感想を話しました。

上原げんと杯 自慢の歌声で観客を魅了

第48回上原げんと杯争奪のご自慢大会(上原げんと杯実行委員会主催)が開催され、約500人の聴衆を前に、予選を勝ち抜いた歌手が自慢の歌声を披露しました。

この日、予選を通過した29人による準決勝と、上位10人による決勝、さらに決勝上位3人による優勝決定戦が行われました。

見事優勝に輝いたのは、優勝決定戦で「セバマダノ〜風の恋文〜」(サエウ)を熱唱した弘前市の小笠原さだ子さん。これまで10回ほど出場し、昨年は惜しくも準優勝でしたが、今年は悲願の栄冠を手に入れました。

小笠原さんは「優勝すると思っていたいなかったので、信じられないの一言です。応援に来てくれた母にいいところを見せられてよかった」と喜びを語りました。



8/29
松の館

熱唱する小笠原さん

坂本東一さんの功績をたたえる記念碑が建立

元ばんえい競馬騎手の坂本東一さん(旧木造町出身)の功績をたたえる記念碑が、多数の有志の協力により、縄文住居展示資料館カルコの隣接地に建てられました。

坂本さんは騎手として活躍し、引退後は調教師として長年にわたりばんえい競馬界をけん引。また、つがる市馬市まつりのルーツである農耕馬の歴史や文化を後進に広く伝えるなど、文化の継承にも大きく貢献してきました。

この日、除幕式が行われ、関係者約60人が出席。式典では坂本さんの歩みを振り返るとともに、その功績を後世に伝えていくことを誓い合いました。記念碑には、騎手や調教師としての経歴が刻まれています。



馬力大会では騎手も務めました



8/29
カルコ隣接地

記念碑の前で謝辞を述べる坂本さん

地元の特産品を給食で味わう

車力漁業協同組合（尾野明彦代表理事組合長）が、今年も地元の特産品を市内の児童生徒たちに知ってもらい、地産地消につなげようと、市にヤマトシジミ121kgを寄贈しました。

寄贈されたシジミは、8月26日から9月7日にかけて市内の全小中学校と森田養護学校の学校給食に活用され、この日、稲垣小学校（小枝晃嘉校長）ではみそ汁として児童たちに配膳されました。

1年生の白瀬碧唯さんは「シジミの粒が大きくておいしかった。普段の給食にも出てほしい」と話し、みそ汁はおかわりをするために列をなすほど大好評でした。



9/3
稲垣小学校

シジミの味を堪能する児童

昔ながらの手作業で稲刈り体験



9/7
瑞穂小学校

一生懸命に稲を刈り取る児童

瑞穂小学校（山舘伸太郎校長）の5年生17人が、総合的な学習の時間に、5月に学校田で自分たちが植えた「まっしぐら」の稲刈りを体験しました。

この日、田んぼは雨の影響でぬかるんでいたところもありましたが、保護者や地域住民の協力のもと、泥に足を取られながらも、児童たちは楽しそうに稲刈りに取り組んでいました。

稲刈りを体験した小田川凜夏さんは「鎌を使って刈るのは難しかったけど、だんだん慣れてきて楽しかった。昔の人は機械を使わずにやっていたのがすごいと思った。コメはカレーにして食べたい」と話しました。

刈り取った稲は、調理実習で使用するほか、学校給食で全校児童に振る舞われます。

これからも円満で 顕彰状を授与

福祉顕彰式が行われ、長年連れ添った夫婦の節目を祝いました。

今年は、88歳を迎えたご夫婦22組、結婚60周年を迎えたダイヤモンド婚のご夫婦8組、結婚50周年を迎えた金婚のご夫婦11組が顕彰されました。

式では倉光市長が「今後ともご夫婦が末永く、お元気で過ごされることを切に願います」と祝福の言葉を贈りました。

ダイヤモンド婚を迎えた中野和治さん・いつ子さんご夫婦は、夫婦円満の秘訣について「たまにはけんかをしながらも、畑仕事や家事などについて、お互いにできることをお互いにすること」と話していました。

また、アトラクションでは银杏ヶ丘こども園の園児による元気いっぱいのお披露目が披露され、会場を大いに盛り上げました。



9/10
松の館

倉光市長から顕彰状が手渡されるダイヤモンド婚夫婦

東北大会での健闘を誓う



健闘を誓う三上くん(中央)と神さん(右2人目)

8月23日にスポカルイン黒石において「第27回青森県小学生バドミントン選手権大会」が開催され、「五所川原ゴールデン・クラブ」に所属する柏小学校5年生の三上藍くんが男子ダブルス5年生以下の部で第3位、同小5年生の神渚奈美さんが女子シングルス5年生以下の部で第4位の成績を収め、東北大会への切符を手に入れました。

この日、2人は市役所を訪問し、倉光市長に大会結果や今後の抱負について話しました。

三上くんは「東北大会で入賞し、全国大会へ出場したい」、神さんは「東北大会でも諦めずに戦ってきます」とそれぞれ抱負を話しました。

倉光市長は「東北大会の舞台でも、楽しみながら精いっぱい頑張ってきてください」と激励しました。

地域活性化のために 寄付金に感謝

アサヒビール株式会社は、市の食・祭り・交流活性化事業に役立ててほしいと、企業版ふるさと納税を通じて1千万円を市へ寄付しました。

この日、同社の長岡隆太東北支社長が市役所を訪れ、倉光市長に目録を手渡しました。

長岡支社長は「スマートドリンクと地域の食・文化・観光資源を融合させた地域活性化の取り組みを応援していきたい」と話し、倉光市長は「スマドリサポーターとして市民の皆さんに広く情報発信していきたい」と話しました。

市では、寄付金を活用し、オリジナルガイドブックの制作やイベント会場等における啓蒙活動を通じて、飲む人も飲まない人も安心して交流できる環境づくりに取り組みます。



倉光市長へ目録を手渡し長岡支社長

自然を守ろう 園児が稚魚を放流



稚魚を放流する園児たち

かしわこども園(鳳至真貴園長)とかしわあつぷるこども園(三浦里佳子園長)の年長児37人が、西津軽新田漁業協同組合(原田登代表理事組合長)の協力のもと平滝沼にフナの稚魚を放流しました。

この活動は、子どもたちに生態系を保全することの大切さを学んでもらおうと毎年実施しているものです。今年は体長約3~4センチのフナ2,000匹を平滝沼に、1,000匹を山田川へ放流しました。

この日、水辺に並んだ園児たちは、バケツの中で泳ぐ稚魚を優しく放流し、園児全員で「大きなあれ」と大きな声をかけながら稚魚が見えなくなるまで手を振り見送っていました。

かしわこども園の相馬優吾くんは「泳いでいる魚が小さくてかわいかった。大きくなってほしい」と成長を願っていました。